

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

令和2年5月号



【西牟婁振興局】 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】  
～ウメの摘心処理講習会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

頁数

<b>I 海草振興局</b>	<b>1 - 2</b>
1. 令和2年産柑橘類の着花状況調査の結果	
2. ビワキジラミの発生状況調査を実施	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3 - 4</b>
1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」発生に伴う 周辺圃場の巡回調査	
2. 短節間エンドウの現地栽培試験を実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5</b>
1. はたごんぼの発芽調査を実施	
2. 採種エンドウのエンドウゾウムシ発生消長調査	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6 - 7</b>
1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）でアイガモの検卵を実施	
2. 新害虫「ビワキジラミ」の発生状況調査	
<b>V 日高振興局</b>	<b>8</b>
1. 重点プロジェクト 【新病虫害や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～	

## **Ⅵ 西牟婁振興局**

**9 - 1 1**

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】  
～ウメの摘心処理講習会を開催～
2. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】  
～ウメ「古城」着果安定対策実証園の収量調査を実施～
3. ヨモギ栽培実証圃の収穫調査結果

## **Ⅶ 東牟婁振興局**

**1 2**

1. 北山村でじゃばら幹腐病対策実証ほを設置

# I 海草振興局

## 1. 令和2年産柑橘類の着花状況調査の結果

5月8日、和海地方の柑橘類の着花状況調査を実施した。当日は、JA、農業共済組合、JAグループ和歌山農業振興センター、海南市役所、県関係機関等の職員25名が8班に分かれて、温州みかん123園地と中晩柑類（清見、不知火、はっさく）28園地の計151園地の着花量や新梢の発生程度を目視（達観）により調査した。

調査の結果、着花量は園地や樹によるバラツキが見られるものの、総体的に平年より多い状況であった。また、満開期は昨年より2日程度早く、平年並からやや早いと思われた。

着花がかなり多い園地も見受けられたことから、調査結果を農業関係機関で共有し、摘蕾（花）・摘果など今後の管理作業の指導に役立てることとした。



着花状況



調査状況

## 2. ビワキジラミの発生状況調査を実施

5月21日、果樹試験場、JAながみねおよび農業水産振興課の担当で海南市下津町内ビワ園地を巡回し、ビワキジラミの発生調査を実施した。ビワキジラミは2012年、国内で初めて徳島県において確認された害虫である。幼虫・成虫ともにビワの樹液を吸汁し、特に幼虫の排泄物が付着した葉や果実にはカビが発生して「すす病」となり、黒く汚れるため、問題となる。今回は、上出、松尾、土井原、笠畑、百垣内地区の合計66園において、本害虫の有無を調査した。36園で発生が確認され、町内の広範囲に分布していることが示唆された。

果樹試験場では、今年度から3年間、「侵入害虫「ビワキジラミ」の緊急防除対策」の試験を実施予定であり、当課も協力して対策に取り組む。



ビワの葉裏のビワキジラミ



現地調査

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」発生に伴う周辺圃場の巡回調査

モモ・ウメ・サクラなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害が、5月7日に管内の岩出市内で初めて確認された事をうけ、那賀地方病害虫防除対策協議会（那賀振興局農林水産振興部、農業試験場、果樹試験場かき・もも研究所、農作物病害虫防除所、紀の川市、岩出市、農業共済組合北部支所、JAグループ和歌山農業振興センター、紀の里農業協同組合：下田和敬二会長）では5月14日に近隣の農地巡回調査を行った。

22名が5班体制で185園地5,706樹の調査を実施した。被害発生地点が管内の桃産地に近いため、侵入が心配されたが、今回は確認されなかった。

なお、今回の被害発生を受けて、当協議会では管内農業者に対してチラシ配布を行い、意識啓発を行う予定である。



調査前の打合せ



現地調査

## 2. 短節間エンドウの現地栽培試験を実施

管内の山間地では、「きしゅうすい」の秋まき初夏どり栽培（露地）が行われているが、初果房節位の位置が高くなることから、収穫できる段数が限られることが、収穫の作業性が悪いなどの課題がある。

そこで、諸課題の改善を目的に、短節間である新品種「みなべ短節間1号」を用いて、紀の川市の山間地2ほ場で、また秋まき春どり栽培についても岩出市1ほ場で現地栽培試験をそれぞれ実施している。

今回、5月12日に関係機関（JA、暖地園芸センター、振興局）で2回目の生育調査（草丈、初花房節位、収穫節位、着花・着莢状況）を実施した。調査結果として、初花房節位、着花・着莢数は従来品種と比べてほぼ同等、草丈は約78%と短くなった。

今後、生育調査に加えて、「きしゅうすい」より莢がやや小さくなる特性がどの程度なのかを達観調査するとともに、生産者に対し収穫時の作業性等の聞き取りを行う予定である。



生育調査



左：みなべ短節間1号 右：紀州うすい



### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. はたごんぼの発芽調査を実施

農業水産振興課では中山間地域の活性化を目的に、平成30年度からはたごんぼの安定生産に向けて取り組んでいる。しかし、ごぼう種子の発芽率が20～30%と悪く、安定生産を目指す上で現場での課題となっていた。そこで、橋本市南馬場の実証展示ほを設置し、かん水量と覆土の厚さが発芽率にどのように影響するかを調査した。

慣行区（スプリンクラーかん水＋覆土厚め）と試験区（かん水チューブによるかん水＋覆土薄め）を比較すると、は種後15日目の発芽率は、慣行区が7%、試験区で80%と大きく改善された。スプリンクラーでのかん水では、かん水ムラが生じやすいのに対し、かん水チューブを使用することでムラ無くかん水ができたことや、ゴボウは好光性種子であることから覆土を薄くしたことが、発芽率向上につながった要因と考えられる。

今後は、一連の作業におけるポイントなどをまとめてマニュアルを作成し、取組農家への普及を図っていく。

#### 2. 採種エンドウのエンドウゾウムシ発生消長調査

伊都地方のエンドウ種子生産現場では、4年ほど前からエンドウゾウムシが発生し、幼虫に豆の中身を食害される被害が増えている。収穫した種子は、手選別で被害粒を除いているため、選別作業の労力増大が問題となっている。また、有効薬剤や防除適期などが不明なため、県農業試験場が農林水産業競争力アップ技術開発事業（令和2～4年度）でエンドウ種子の安定供給のために早急に防除対策を確立することになった。

ほ場への飛来時期、産卵時期等を特定し発生実態を解明するため、4月28日、5月15日、28日に県農業試験場、農業水産振興課、JA紀北かわかみの職員で産卵及び成虫飛来の目視調査、粘着トラップによる調査を行った。

当課では引き続き、関係機関と連携して防除対策の確立に向けて協力して行く。



ほ場での発生消長調査



エンドウゾウムシ

## IV 有田振興局

### 1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）でアイガモの検卵を実施

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）が20年前から行われている。

「田んぼの学校」は当時、育成会の会長をしていた山崎氏が、学校給食から多くの残飯が出ていることを知り、子どもたちにお米のありがたさ、大切さを伝えるために始めた取組である。

児童は苗取り、田植え、稲刈りなど年間を通じて、コメ作りを体験するとともに、アイガモを水田に放して雑草の発生を少なくするアイガモ農法を実践し、収穫されたお米は、「鴨・米・美」“カモンベイビー”として、一般の方にも販売されている。

授業の一環として、5月8日に種まき、ふ卵器への入卵、5月18日にアイガモの卵の生育状況を確認する検卵が実施され、山崎氏、農業水産振興課職員から、ふ化に必要な条件や、受精卵の成長の様子について説明を行った。児童らは興味深い様子で、成長している卵を確認していた。

当課では、今後も農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



検卵方法について説明をする  
山崎佳彦氏



子供達がメッセージを書いた  
アイガモの卵

## 2. 新害虫「ビワキジラミ」の発生状況調査

ビワキジラミは2012年に国内（徳島県）で初確認されたビワの新害虫。県内では2017年に由良町で初確認、2019年には産地である海南市下津町でも確認された。ビワキジラミに被害されると「すす病」が発生し、商品価値をなくすため、初期対応が重要となる。

管内の産地である湯浅町田地区においては、これまで発生への報告がなかったが、早期に対応するため5月27日にJAありだ、果樹試験場、農業水産振興課の担当者で一斉調査を行った。

結果、大きな被害は認められないものの、一部園地での発生が確認されたことから、今後、関係機関と共に防除対策、現地指導を実施していく。



現地調査



ビワキジラミ成虫



「すす病」の被害

(農研機構マニュアルから)

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木を内部から食い荒らし枯死させる特定外来生物である。2019年11月にかつらぎ町、2020年5月に岩出市で本虫による被害が確認され、日高地方への被害拡大が懸念されている。

5月25日～6月4日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、クビアカツヤカミキリの侵入警戒と蔓延防止のため、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）を巡回調査した。

サクラ樹の主幹根元から4mの位置まで、1樹ずつ調査を行ったが、クビアカツヤカミキリのフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）等の発生は確認されなかった。

また、ウメ園での発生状況調査として、日高果樹技術者協議会によるウメ着果調査（4月下旬、5月中旬の2回、148園）と併せてクビアカツヤカミキリを調査したが、発生は確認されていない。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布等により、生産者はもちろんのこと、一般住民への啓発を行っていく。



クビアカツヤカミキリのフラス発生状況等を調査（由良町、御坊市）

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

#### ～ウメの摘心処理講習会を開催～

ウメ「南高」の摘心栽培による着果安定を目的に、4月30日、5月1日、8日に摘心処理講習会を田辺市新庄町、中三栖、上芳養、秋津川の4地区で開催した。摘心栽培に関心のある生産者41名とJA紀南営農指導員7名が参加した。

摘心処理は4月下旬と5月下旬の2回、新梢を10cm程度残して摘心することで結果層を増やすとともに、せん定作業の省力化が期待できる。しかしながら、「5月下旬の2回目の処理が農繁期で取り組みにくい」と労力面での課題があり導入面積が伸び悩んでいる。

そこで、技術実証園や展示園において、昨年からの充電式電動バリカンを用いて省力的に摘心処理を行えることを紹介し、取り組み面積の拡大を図ってきた。

摘心樹と慣行樹の着果状況の違いを確認したうえで、垂主枝や側枝の背面から発生した新梢の先端部分を、前田普及指導員がバリカンで刈っていく方法を実演した。また、実際に数人の生産者に体験してもらい、「着果が少ない小梅で試してみたい」「数年摘心した樹のせん定方法も教えて欲しい」との感想や要望があった。

普及指導計画（H30～R2）に取り上げ、導入面積の拡大を図ってきた結果、新規に取り組む生産者や、導入面積を広げた生産者もあり、計画策定当初の2.5haから2カ年で昨年度は8haまで増加した。

農業水産振興課ではJA紀南やうめ研究所と連携して、ウメの生産安定につながる摘心処理技術の導入推進にむけ、今後も普及活動に取り組んでいく。



摘心処理の説明（中三栖）



生産者が体験（上芳養）



摘心実証園の着果状況（中三栖）

## 2. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

### ～ウメ「古城」着果安定対策実証園の収量調査を実施～

ウメ「古城」は着果が不安定なため、栽培面積が年々減少傾向にあり、面積を維持するためには、着果安定対策の検討と実証を行う必要がある。そこで、うめ研究所と連携して田辺市新庄町に早期摘果処理の実証園を設け、収穫量やヤニ果の発生に及ぼす影響を調査するとともに、受粉樹3品種（「橙高」、「八郎」、「養青」）の開花時期を調査して受粉に有望な品種を選抜している。

これまで2月に開花期の調査、3月下旬～4月上旬に摘果処理を行い、5月20日に調査樹毎に全果実を収穫した後、階級別の重量、30果の重量、100果中のヤニ果発生数を調査した。

調査の結果、各調査区3樹ずつの収穫量は早期摘果区で97.2kg、慣行摘果区で93.2kgとほぼ同等であった。階級別重量割合では早期摘果区の方がやや小玉傾向であった（図1）。また、ヤニ果の推定発生率は早期摘果区で20%、慣行摘果区で28%と早期摘果区でヤニ果の発生がやや抑制されていた。

農業水産振興課では、うめ研究所がこれまでの調査、実証の結果をまとめた「『古城』栽培指針（改訂版）」を活用し、「古城」の安定生産に向けて有望な受粉品種「橙高」「八郎」の混植や高接ぎ、ヤニ果の発生を抑制するための早期摘果をJA紀南と連携して指導している。



収穫調査（5月20日）



摘果程度の目安（80果/m<sup>2</sup>）

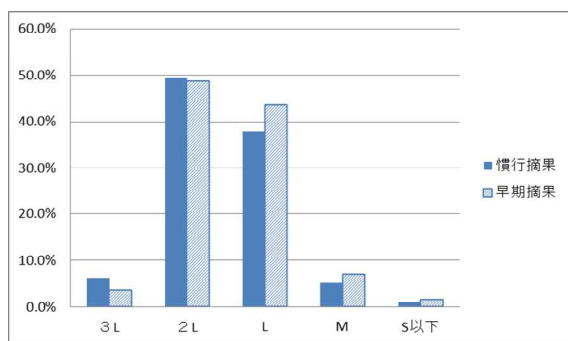


図1 階級別の収穫量割合

### 3. ヨモギ栽培実証圃の収穫調査結果

ヨモギは、紀南地方でよもぎ餅に活用されているが、近年、シカの食害により、自生株が減少している。一方、山間部は耕作条件の悪い農地が多く、耕作放棄地が増えている。

そこで、農業水産振興課では、耕作放棄地対策としてヨモギ栽培の実証を行い、普及性について検討している。

実証圃は、よもぎ餅を製造販売しているすさみ町の抜田氏の協力を得て、奈良県の深吉野ヨモギ生産組合から購入したオオヨモギの地下茎を平成30年3月7日に定植したもので、収穫2年目を迎える。定植後の主な管理作業は除草、施肥、冬期に枯れた地上部の剪除であり、労力がかからないことと、自生のヨモギを少しずつ収穫するより、まとまって栽培することで収穫効率が良いことが魅力である。

収穫は新芽の軟らかい部分10cm程度を鎌で刈り取り、1回目(4月7日、9日、22日)の収穫後、地上部を刈り込み、新芽を再度発生させる。2回目(5月15日、25日)の収穫後はそのまま管理し、地下茎の充実を図る。

調査の結果、1aあたりの収量は1回目26kg、2回目10kg、合計36kgと昨年の1.5倍の収量が得られた(図1)。また、1aあたりの収穫作業は、収量の増加に伴い、昨年の1.3倍にあたる30時間を要した(図2)。

当課では今後も極力手間をかけない栽培方法を実証し、栽培面積の拡大に向けた普及活動に関係機関と連携しながら実施していく。



収穫調査(4月7日)



収穫時の草姿(4月7日)

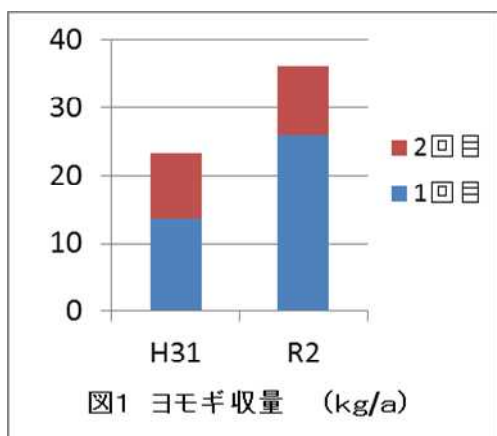


図1 ヨモギ収量 (kg/a)

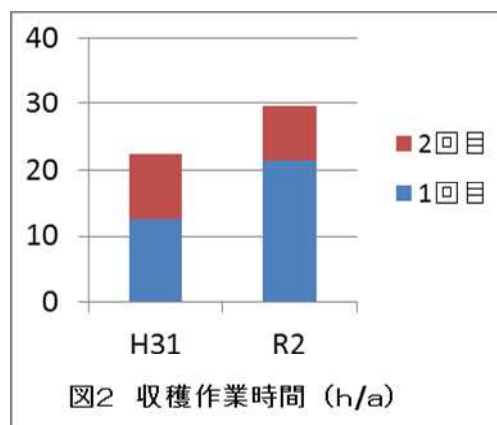


図2 収穫作業時間 (h/a)

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 北山村でじゃばら幹腐病対策実証ほを設置

5月28日、北山村大沼のじゃばら園で幹腐病対策実証ほ10aを設置した。幹腐病は、枝幹部に局部的に発生し、樹皮や木質部まで腐りこんですり鉢状または溝状にくぼむ病気で、東牟婁地方のような降水量が多い地域で発生しやすい。重症の場合は、樹勢低下や枝折れが発生し減収するため、じゃばら栽培の大きな課題になっている。

実証ほでは、3月に風通しをよくするための間伐とワイヤーブラシによる病患部の削り取り及びICボルドー散布による防除を行っている。今後、梅雨期の6月と、梅雨明けが遅くなる場合は7月に殺菌剤を散布し、冬期に病患部の削り取り等を行い幹腐病を防除する。

また、6～7月に病患部の子のう盤の発生状況や、11月に収量を調査し、対策技術の効果を確認する。

農業水産振興課では果樹試験場と連携し、じゃばらの幹腐病対策技術を生産者に伝え、果実の安定生産につなげていく。



幹腐病発生状況の確認



列ごとに間伐したじゃばら園(間伐3月)



### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489